昭和五十八年九月二十五日　郷土研究会資料

第一二六回

史跡めぐり資料

大平山神社

栃木市内

蔵のまち

うずま川

散歩

越谷市郷土研究会

第一三六回　史跡めぐり　案内

とき　九月二十五日（日）

集合　越谷駅前　午前八時の分　出発　八時二十六分下り準急

行先　越谷駅―日光線　栃木駅下車　駅前より関東バスにて

コース

大平山行　大平山県立自然公園下車

徒歩大平山神社―山頂にて休憩昼食―バスにて下山（十二時十五分発）

栃木市末広橋下車―蔵のまち　塚田記念館―

神明宮（地名のお坂り）―近竜寺（山本有三の墓）

―蔵のアパート―栃木町並―おたすけ蔵―

県庁塚（旧県庁跡　市役所）―代官屋敷跡（

田田記念館）翁島―新栃木駅―快速―

春日部駅乗替―越谷駅　解散

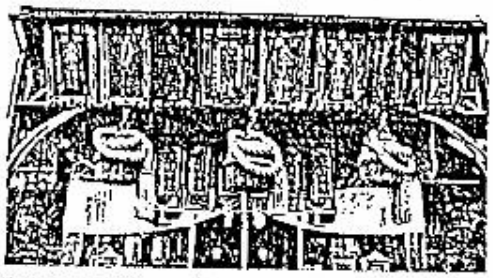
参加費　金三千円（交通費保険料　見学料　テ代　資料ほか）

案内者　石塚吉男

※　昼食　各自御持参下さい。

メモ

東日本新聞



花鳥風月に遊ぶ—太平山県立自然公園

●遠信平からの眺望は「珠の松島」

春は桜、ツツジ、夏には山あじさい、秋の紅葉、早春の椿、と四季折々に美しい顔をもつ太平山周辺はまさに絶景。遠信平からの眺めは「珠の松島」と称えられる絶景。また太平山神社から手軽なハイキングコースもあり、野鳥達の音楽会に耳を傾けながら大自然を満喫できます。

●太平山で見つけた味

郷土地の味に必ず美味あり！と太平山神社名物は、夜鳴きする鳥を神社に奉納したことに由来する亜子焼と焼きとり。ジャンボなおいしさで子供達に大人気。また、アンコたっぷりの太平山団子や味噌の香りがこたえられない味噌田楽も天下一品の味。

『近龍山のいわれ』

当山は應永三十八年（一四〇三）良懐上人によって頭初城内宿河原に創建され、その後天正十六年（一五八八）に当地に移された浄土宗の名刹で、中国の故事「鯉が三級の位に達すると龍になる」ことから三級山近龍寺と名付けられた。明治の初期栃木県で最初の小学校及び師範学校が当山内に開設された。境内には子育安産、学業成就の石龍堂（毎月八日縁日）や文豪山本有三の墓等がある。

栃木

江戸情緒が

蔵造りの街並みに息づく商人の街

栃木は、江戸時代日光例幣使街道の宿町として、また巴波川の舟運によって物資の集積地として栄えた商人の町。巴波川から利根川へ、そして江戸へ航路をへだてること12里。巴波川には当時百隻以上もの回漕船があり、米や穀類を運ぶ舟が行き交い、その賑わいぶりは10万石の城下町と間違えられるほどでした。

栃木から明治にかけて、急速に発展をとげた街の来歴はその財力の証しに競って建てた豪壮な蔵・土蔵は街のシンボル。今も巴波川沿いに数多く並べて旅情を誘います。

また、旧例幣使街道にあたる街の中心商店街の一見近代的な店の中に一歩入ると、大切に保存されてきた見世蔵や土蔵が姿を現わし、宿場町時代の隆盛ぶりが偲ばれます。

かつて「下野の小江戸」と呼ばれた栃木の時情を支えているのは、巴波川に美しく映える蔵造りの街並みだけではありません。店に座っているだけで絵になる大店のご隠居さん、手作り惣菜を作り売りするおばあちゃん、観光客にお茶をもてなしてくれる気さくな農家のおかみさん、粋な商店街の旦那衆…そこに住む人々も重要な担い手です。人情があって活気、昔気質という言葉が、今もこの街には生きています。

街にうるおいと風情を与える巴波川を中心に広がる街並みと市民の姿があいまって、訪れる人々に江戸情緒を感じさせ、あたかも同時代人になったような不思議体験にめぐりあわせてくれる街です。さあ、現時間をはずしてのんびりと心のお洗濯。新しい感動があなたを待っています。

街 TOCHIGI MAP

出流山満願寺
坂東33ヵ所霊場の第17番札所。大伽ノ滝、鐘乳洞、大仏窟など見どころいっぱい。山桜11度、出流そばも名物。
（栃木駅よりバス約60分）

観光ぶどう園
大平山南山麓 8月～10月上旬（所大平下駅）
お問い合せ
(0282)-43-8111
大平町役場商工課。

大中寺
大中寺の七不思議伝説で有名な寺。
大中寺から大平山神社へのハイキングコース有。

太平山神社
平安初期、慈覚大師円仁創建と伝えられている神社。山岳宗教の霊場として栄枯を重ねた歴史で神秘的ムードただようところ。休憩びの神社としても数多くの人々に親しまれている。
（栃木駅よりバス約20分）

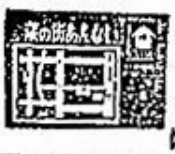
六角堂
太平山中腹、展望抜群。

塚田記念館
木目模様美麗の家具、8つの住居址跡、120mに及ぶ円墳は時代のままながら、映画「乃木の石」のロケはここが舞台。

あだち好古館
蔵の美術館、郷土の自然、広重の浮世絵、陶器の珍品など。

鐘撞山公園
駅より徒歩約40分。降雨山開田神社（山頂）、フジの名所（5月上旬）。

目印はコレ！
蔵の街 遊歩コース
方向音痴の人でも安心！と大目印付きの道案内板が市内25ヵ所。



晨野遺跡
旧石器時代の遺跡。縄文期の竪穴住居が一般公開されている。周囲は大邸宅に囲まれ、休憩所「いこいの森」有。近くの美術館でマス料理が味わえる。
（栃木駅よりバス約40分）

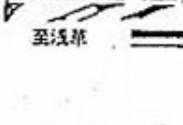
蔵の市通り
2月と9月の第1日曜日、通り沿いに蔵の市開催。

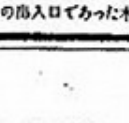
市役所（1階商工課）
栃木の観光パンフレット有。栃木マニアになるチャンス。

旧市庁舎
大正期の典雅な洋風建築。

横山郷土館
麻問屋&銀行（栃木貴金銀行）を務めていた横山家。明治の家造の様式は必見。明治の栃木を語る格好の場所。

塚田記念館
木目模様美麗の家具。8つの住居址跡。120mに及ぶ円墳は時代のままながら、映画「乃木の石」のロケはここが舞台。





至東新栃

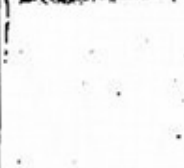
お帰りは新栃木駅から「ゴ苦労さま！」と声をかけてくれる目黒駅員さん。

栃木思いっきり満喫！
ぐんぐんぐらぐら夕日は比み、栃木一色、楽しいっぱいかえて一路帰途へ。
See you again, Tochigi!
また来る日まで…。

岡田記念館
蔵山氏の神社として4～5百年の歴史を持つ由緒。出雲の中を取り巻く栃木市の文化史・生活史が一目瞭然。光琳年間建築の門は岡田邸のシンボル。休憩所 無料お茶の接待も新鮮で一休みも良し。

神明宮
栃木の総鎮守。神明宮の手水がりの水がもとから"とちぼ"の地名の由来。5年に1度の大祭山車は国重要有形の文化財。

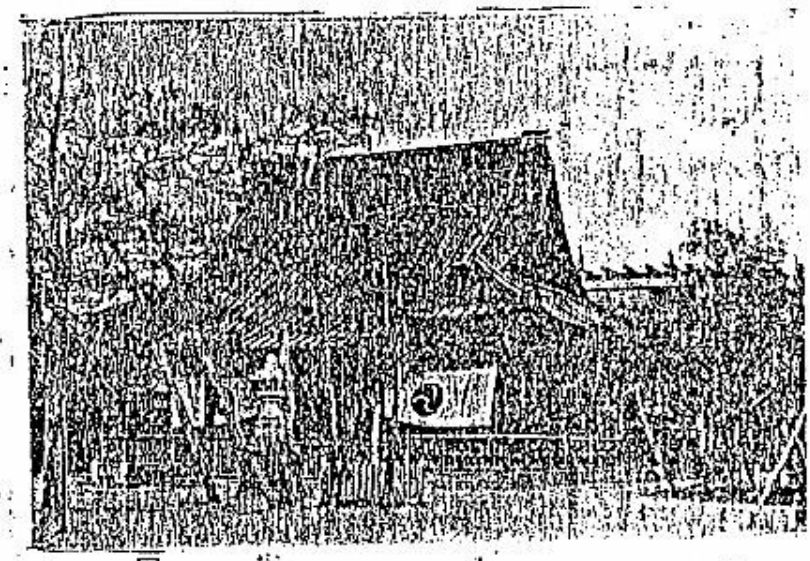
近龍寺
下野33番札所。山本有三の墓。



規光案内所
規光案内図無料配布・貸自転車（1時間￥200）
▲印は、江戸時代栃木町への出入口であった木戸の所在地。

至浅草

神明宮略誌



〔御祭神〕‖主祭神、天照皇大神、配神素盞雄命、遺化三神（天之御中主神、高御産巣日神、神産巣日神）

〔御由緒〕‖下野国栃木の鎮護の神として斉き奉らる。当社は勧請の因記詳ならずも中興改築の棟札に、応永十三年（紀百代後小松天皇の御宇）九月十六日正遷座、天照皇大神、祇園牛頭天皇とあり。応永の頃は皆川紀伊守の所領にして、同家は藤原氏の系統なるにより其の最も尊崇する素盞嗚雄命を相殿に祭祀せるものなるべし。爾来近郷榎本城の支配を受けしが、天正年間豊臣秀吉小田原城征伐の挙あるや、時の城主榎本藤四郎は北条氏に属せしめた宗家小山氏（現在の小山市）の居城小山城落城と共に榎本城も没落せりと伝記に見ゆ、又大宇栃木城内に皆川広照公の支城ありて神明宿なる小字あり、是当社の旧地なりしを天正十七巳年年正月十六日現地に奉遷されたるものなり。徳川氏天下に覇たるに及び、或は代官領となり、或は知行所となり幾多星霜を経て、御祭事は町寮行之を掌りて、社家之を執行し来たれり、当社は明治五年に県社に列せられ、奉告は時の栃木県令鍋島幹之を行う。同六年境内に於ける禁制の高札を下賜せらる。これ実に県下初めてのことである。

〔御神徳〕‖全国神社の本宗として仰がれる伊勢皇大神宮の内宮に奉斎され申すまでもなく太陽のごとく私共の上に恵みの光を投げかけ、かつ明るく強く生きる力を与え下さるという一つの日の神と申されましょう。従つて皇祖の大神として崇祀され我国最高の貴神と仰がれます神にまします。

〔境内社〕‖須賀神社。福寿稲荷神社。魁稲荷神社。粟島神社。琴平神社。富士浅間神社。恵比須神社。市姫神社。愛宕神社。小御嶽神社。松尾神社。

岡田嘉右衛門家由緒書

当家は現当主岡田嘉右衛門をもって二十五代を数える栃木市随指の旧家である。祖先は関東管領の上杉憲政に仕えていたが、その居城上野国平井城落城により近世初頭の頃この地に帰農し、土豪として新田の開発にあたつたため、開発名主の名に因んで嘉右衛門新田と称するようになつた。日光例幣使街道の開設盛行に伴って沿道の名主としての重責を担ったほか、商家鼎山氏の知行地となると、当家の居敷内に領内十三か村の役所である陣屋が設けられたので、当主は代々領内の惣代名主的役割を果しており、かって幕末期には代官職を代行し、その後に戸長を勤めるなど地域発展のため寄与している。

一方、歴代当主は芸術的分野にも関心が深くその愛護奨励にも意を用い、巴波川の舟運や街道の往還を通じて見多の文人墨客の逗留があり、中央との文化の交流の拠点であった。明治の中ごろ我が国頭壊を代表する不世出の画家宮崎鉄斉の来訪があり、特別の交誼が結ばれたことは特筆すべき事であろう。また、句誌「渋排」の主宰として有名な松根東洋城がしばらく当家の邸内に寄宿したが、そのとき起居した別棟を故は「無尽荘」と称している。更に俳壇家で文化勲章を受章した人間国宝の板谷波山は青年時代の一時期を、竹芸家の飯塚琅玕斎は少年時代をこの嘉右衛門町内で過ごしており、これらゆかりある各大家の作品の一部が館内に陳列されている。

岡田家紋所　車前草

醍醐帝遊宵に行幸され、途上御輿あり甚だ急なり、岡田家先祖蔵人大夫高吉車前草（おおばこ）を採し以て薬餌に和し、調しみて飛を献上す、帝の御病たちどころに御平癒、御感ありて相州四郎の地荘子を賜う、即ち車前草を紋にせよとの御勅定によりこれを感匠し家紋とす。

畠山家紋所

陣屋の屋根瓦や武器・具足・衣裳等に紋所がついてある。

翁島由来記

下野の栃木は、かって巴波川の舟運によって栄えた商人の町である。嘉永四年生れの岡田孝一は三十一才で隠居して、その長男嘉右衛門に家督を譲ったものの、当時足尾銅山の開発に着手した古河市兵衛と縁を結び、東京への産銅の輸送、鉱毒解消用石灰の供給などに尽力し家運を増長させた。足尾、伯尾、栃木へと陸路を運び栃木から巴波川の舟運で渡良瀬川より利根川に出て、東京へ送りこむ事に着目したのは明治十八年の頃で、その内水路による回漕を請負った。岡家の船着場は町の北郊に当る小平町地内の巴波川河畔にあって、上河岸とも呼んでいる。雅趣に富み骨董好きだった孝一は、齢七十を迎へ別荘建築を発起しその地を鉄道開通によって不要になった自家の荷揚場を選んで巴波川に面し、一度手に水を巡らし、約七反歩にわたる一画は島にも似せたものである。一郎二階建瓦葺平屋の木造隠居家を構えたのである。特に用材については東京の木場で吟味買付け自家の庭でひかせたもので、桧材はすべて木曽産である。廊下に使った板巾六間半、幅三尺、厚さ一寸の檜板は町内の老巨木を割らせて張ったもので、町内の棟梁の工匠達が技を競い竣工したのは大正十三年で、栃木市における大正期を代表する木造建築といえよう。ここに嘉右衛門町の本邸から移り住んで米寿を迎えた孝一をいつしか翁といい、この別邸を翁島別邸と呼ぶようになった。